

## ネエ ダンナサン あるいは原風景'02

著者	阿部 典英
雑誌名	生涯学習研究と実践 : 北海道浅井学園大学生涯学習研究所研究紀要
巻	3
ページ	1-8
発行年	2002-09-30
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1136/00002388/">http://id.nii.ac.jp/1136/00002388/</a>

## ネエ ダンナサン あるいは原風景 '02

“I Say, Sir, or Original Landscape '02”

阿 部 典 英

ABE, Norihide (Ten-ei)

この作品は阿部典英個展として、次の通り開催したものである。

1. 日 時 2002年 5 月10日（金）～ 5 月31日（金）
2. 会 場 CAI現代芸術研究所（CAIギャラリー）  
札幌市中央区北 1 条西28丁目 2－5



ネエ ダンナサン あるいは原風景 '02

800×350×420cm  
木(セン、シナ)、黒鉛、ラッカー他





①向って左側前上からの作品



②向って右側前からの作品



③向って右側から中央部の作品

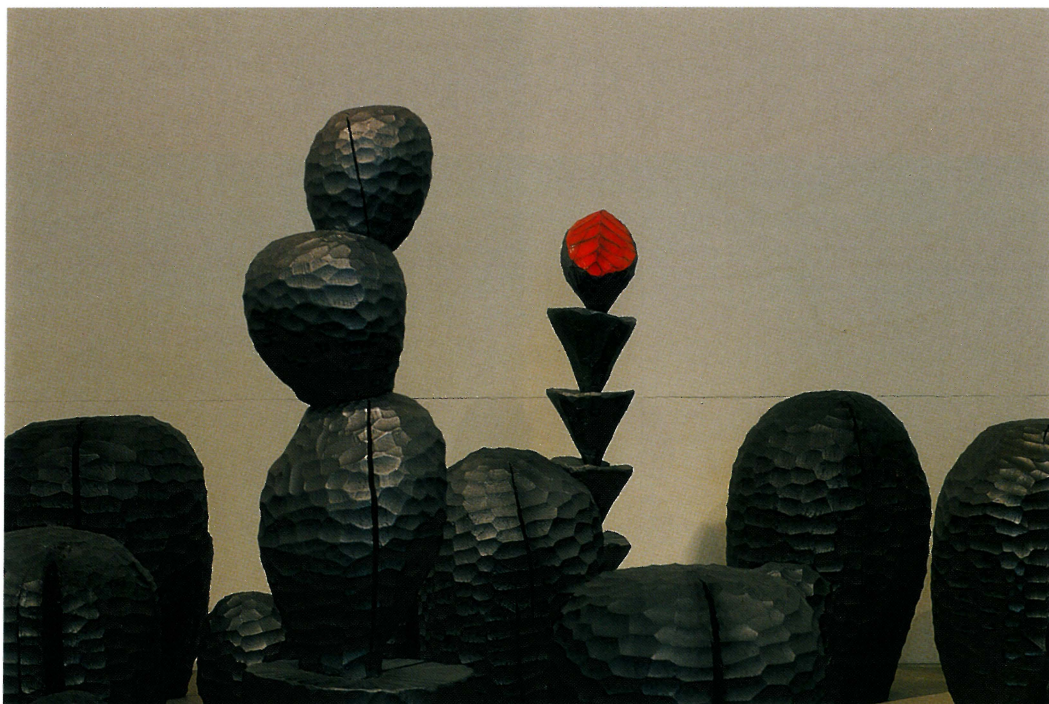


④向って右側横からの作品

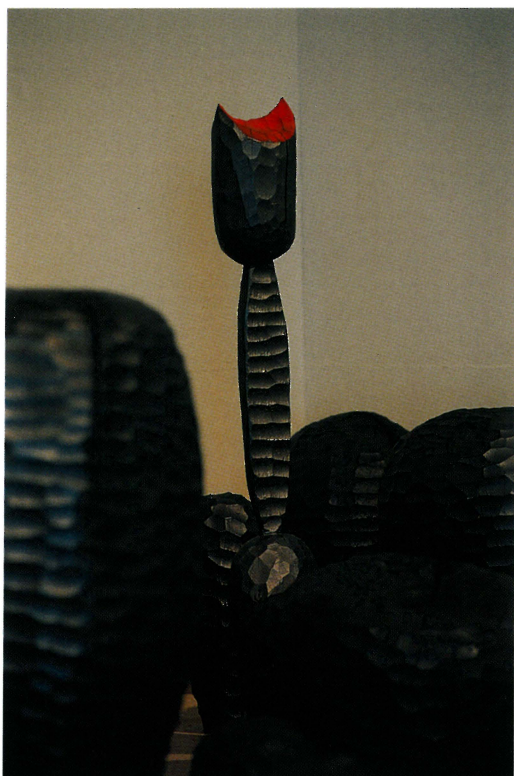




⑤向って左側横からの作品



⑥正面からの中央部分の作品



⑦正面から中央部右側の作品



⑧向って左側からの作品

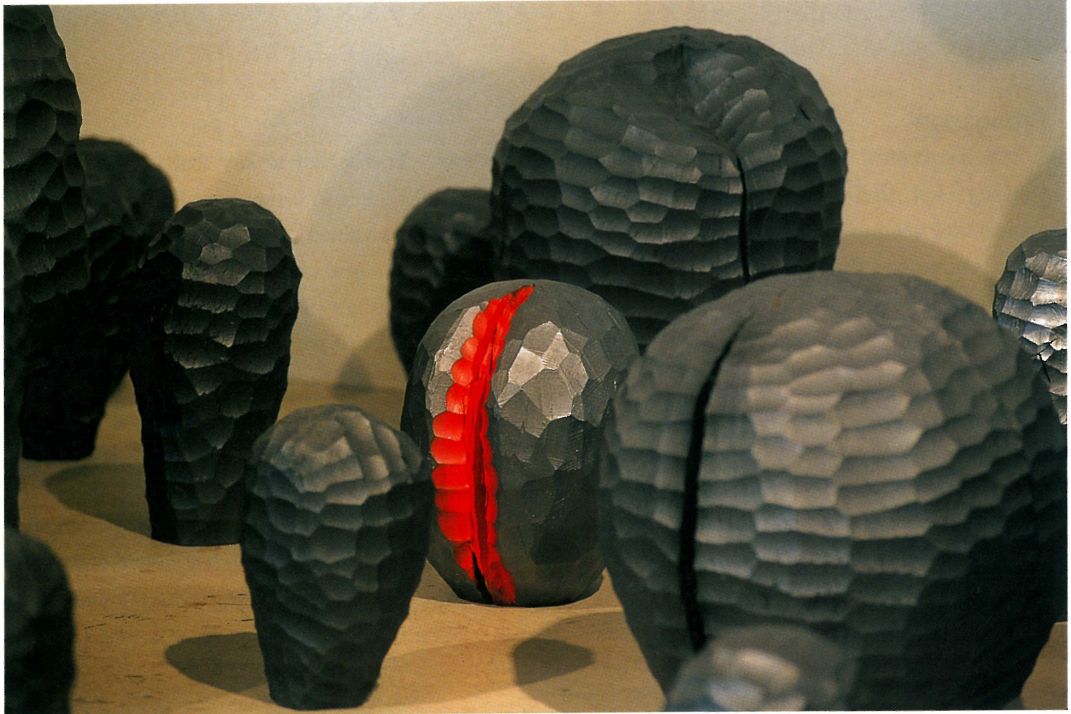




⑨ 向って右側から中央部分の作品



⑩ 正面からの作品



⑪ 向って右側より正面中央部の作品



⑫ 向って左側より中央部の作品



個展について、CAI現代芸術研究所 ディレクター トラスト C. ハワード氏から次のような文をいただいた。作品理解の一助になればと考え、ここに紹介させていただく。

### Prpagarion

It has been 4 years since Abe Ten-ei's last solo show. This is not to say that he hasn't been working. For Abe, a respected educator and one of the central figures in a number of leading arts organizations, such as the Hokkaido Solid Art Association, time is a valued commodity. Yet, Abe Ten-ei diligently takes the time to look at and re-evaluate his own art. And... at that certain moment, like a coral on the night of a mid-summer's full moon, he releases. Abe's pieces become manifestations. propagation. of his creative energy. Abe invests his energy in the sculpture, only to set it free as the pieces are shown at exhibion.

As the flora spread their pollen with each spring, similarly Abe's work radiates his creativity. His iconic imagery draws upon our ideas or preconceptions of male and female. However, in looking once again at the pieces within Abe's installations, one comes to realize the hermaphroditcy of the individual objects. Both male and female energies are in balance. Abe, in brining these separate iconic pieces together in an installation, he establishes an association with sexuality and reproduction. Yet in this case, the symbolized course of propagation is relegated to asexual reproduction. The creative life of the artist, is in a sense, much the same. Art work being the ultimate procreation of one's self.

Trast C, Howard

May, 2002

Director CAI

Sapporo, Japan

### プロパゲーション

美術家、阿部典英の前回行われた個展から4年が過ぎている。それは、沈黙ではなく、場を変え美術を通じた啓蒙の時間といえよう。例えば、阿部は道内において美術教育の場に籍を置き先駆的な立体作品を制作している芸術家集団の中心的人物であり、彼らが昨年企画した北海道立近代美術館での「北海道立体表現展」は高い評価を得ているのである。

阿部は自己の芸術に対して勤勉な姿勢をとり、自己の探求に時間をかけなければならなかった。それは、真夏の満月の夜に突然、そして特定の瞬間での珊瑚の射精を待つように。放射される阿部の魂は、創造的なエネルギーとして彼の普及の明示になり彼の彫刻に反映される。

春に花粉を纏った植物が風を待つように、阿部の芸術は彼の創造力を放射するのである。阿部が展示空間において彫刻（魂）を自由にインスタレーションすることは、あたかも彼の元となるイメージは、我々がもつ男女の性を連想させる。しかし、阿部のインスタレーションを注意深く再度その一部にふれることにより、我々は個人が内包する両性具有を体験することになる。ここで個人における男女のエネルギーは、平衡状態に導かれるのだ。

阿部のインスタレーションにおける、これからの別々（性別）の肖像部分の一つにして羊水（塩水）に浸すとすれば、彼の創造する芸術の中に二つの性と再生をもつ関係が確立される。したがって、通常の性のいとなみを象徴している阿部が示す経路では性を超越した再生が成り立つのだ。アーティストの命は創造力であるならば、ある意味では同じであり、作家自身が現時点で生きるために行う芸術行為としての最後の出産である。彼の再生を是非見て頂きたい。

2002年 5月

CAI ディレクター

トラスト C. ハワード